

# 「防災・減災・復旧・復興 Q&A」発刊記念シンポジウム 高村薫さん講演会とディスカッションの夕べ

災害復興支援委員会 副委員長 繁松 祐行



当会も構成団体となっている近畿災害対策まちづくり支援機構の主催で、標記シンポジウムが行われました。

同支援機構の前身である「阪神・淡路まちづくり支援機構」は、阪神・淡路大震災の発生から約1年半後の1996年9月4日に設立された、わが国で初めての専門家団体による横断的なNPOです。同支援機構では、昨年、大災害の救援・復興にあたってきた研究者(学者)と専門実務家(弁護士、建築士、技術士、税理士、不動産鑑定士、土地家屋調査士、社会保険労務士、司法書士、行政書士)が、研究と実務経験に基づき、理論と実務を兼ね備えたQ&A集「防災・減災・復旧・復興 Q&A」を発刊したことから、その記念シンポジウムとして、作家の高村薫さんをお招きして標記シンポジウムを開催したものです。

## 第1部 講演会「災害と人間」(高村薫さん)

第1部の講演会では、高村薫さんが、自らの被災経験をもとに、「災害と人間」をテーマに講演をされました。

高村薫さんは、「災害の時代に生きることを余儀なくされている私達日本人が、将来の災害を迎え、この社会を未来の世代に渡していくためには、私達がこれまで度重なる自然災害とどう向き合ってきたか、災害を目の当たりにして人間はどう変わり、どう変わらなかったなどを正確に振り返らないといけない。」と言われていました。その上で、自然災害は高齢者に大きなダメージを与えること、高齢化が進む日本において、高齢者が震災に遭う意味を考えなければならないことを強調されていました。そして、私達人間は、築いてきたものを失うことでダメージを受けるものであり、築いてきたものはいずれ失われるという発想に立てば、考

え方や現在の生活スタイルも変わるのではないかと話をされました。

## 第2部 パネルディスカッション

第2部は、高村薫さんの他に、平山洋介神戸大学教授、小島和彦技術士、松永和美社会保険労務士、橋本恭典税理士、野崎隆一神戸まちづくり研究所代表がパネリストとなり、当会の齋藤浩弁護士がコーディネーターを担って、「常時災害列島で備えること、生き抜くこと」をテーマに、パネルディスカッションを行いました。

パネルディスカッションでは、防災や復興の基盤となるコミュニティの本質や避難所の問題(環境の劣悪さや、福祉避難所等の問題)、超高齢化社会における住宅復興の問題、復旧・復興過程の資金援助や税金の問題、失業の問題、被災時の不動産評価の仕方、企業の

復興と援助などの多種多様な問題について、パネリスト自らの経験等をもとに議論を行いました。

災害時におけるハードとソフト両面の問題を扱い、災害復興支援に関する知識が一層深まったと思います。

上記シンポジウムには、100名を超える方が参加され、参加者からは、「たいへん感動しました」「勉強になりました」といった感想をいただきました。

